

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-74	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
50 大修館	文国 705	新編 文学国語		

1. 編修の基本方針

- ・主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるよう配慮する。
- ・文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、上代から現代に至る多様な文学的な文章の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
文学の扉を開こう	・文学的な文章を読むために必要な知識・技能を項目ごとに示し、文学作品に向き合う視点を獲得することをねらいとし、「文学の扉を開こう」を位置づけた。(第1号)	pp.8-16
I		
1 明日をひらく 少なくとも最後まで歩かなかった そとみとなかみ [書く] 言葉でスケッチ	・自己との対話をとおして文学に対する興味をいざなう導入教材として、「少なくとも最後まで歩かなかった」「そとみとなかみ」を位置づけた。(第1～5号) ・言葉に親しみ、創作を楽しむ心情を育てることをねらいとし、「言葉でスケッチ」を位置づけた。(第1・2号)	pp.17-38
2 小説を楽しむ(一) ナイン 晴れた空の下で [文学の窓1] 本の世界を広げよう	・友情、愛情をテーマにした現代の小説から、人の心のありようを印象的に描き出す文体や構成、表現の特色を味わえるよう、「ナイン」「晴れた空の下で」を位置づけた。(第1～5号) ・時代をうつす文学賞をはじめとした、本とのさまざまな出会い方を紹介し、文学に対する興味を高められるよう、「文学の窓1」を位置づけた。(第1・5号)	pp.39-68
古典の世界1 星取り 児の飴食ひたること	・古典作品のおもしろさを現代の感覚から共有することについて考えが深められるよう、「星取り」「児の飴食ひたること」を位置づけた。(第1・5号)	pp.69-74
3 詩を味わう 道程／小景異情／ 永訣の朝／コスモス [文学の窓2] 詩の展開	・詩の表現形式について基本的な知識を押さえた上で、さまざまな作品をとおして解釈の多様性について考察することをねらいとし、「道程」「小景異情」「永訣の朝」「コスモス」を位置づけた。(第1・2・4・5号) ・近現代詩の展開を紹介し、詩に対する理解を深められるよう、「文学の窓2」を位置づけた。(第1・5号)	pp.75-88
4 名作を読む(一) 山月記 [文学の窓3] 生まれ変わる文学	・漢文訓読調の文体の魅力を味わい、異形に変化してもなお執着し続ける人間の苦悩について考えが深められるよう、「山月記」を位置づけた。(第1・5号) ・翻案や映像化などの例を紹介し、原典を書き換える過程において作品と向き合い、考えを深められるよう、「文学の窓3」を位置づけた。(第1・2・4・5号)	pp.89-112

古典の世界 2 かぐや姫の昇天 月やあらぬ	・未知のものへの恐れと憧れや、昔を懐かしむ感情など、時代を越えても変わらない思いについて考えさせることをねらいとし、「かぐや姫の昇天」「月やあらぬ」を位置づけた。(第1・5号)	pp.113-118
5 社会に生きる 神去なあなあ日常 鞆 その日東京駅五時二十五分発 [文学の窓 4] 社会と文学	・自己と社会との関わりについて、さまざまな環境や時代を扱った文学作品から、ものの見方、感じ方、考え方を深めることをねらいとし、「神去なあなあ日常」「鞆」「その日東京駅五時二十五分発」を位置づけた。(第1～5号) ・文学作品をとおして社会と関わることにについて考えられるよう、「文学の窓 4」を位置づけた。(第1～5号)	pp.119-156
6 表現を味わう 身内ほど厄介なものはない 柿 ぼくのお母さん [書く] 思いを言葉に	・さまざまな形式の文学的な文章を読み、言葉のもつ力や書き手の個性、多彩な表現を味わえるよう、「身内ほど厄介なものはない」「柿」「ぼくのお母さん」を位置づけた。(第1・2・5号) ・読み手を意識した文章の構成や展開を工夫して創作することをねらいとし、「思いを言葉に」を位置づけた。(第1・2号)	pp.157-176
古典の世界 3 はしたなきもの 手のわるき人の 行く河の流れ	・古来より続く人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方について考えを深められるよう、「はしたなきもの」「手のわるき人の」「行く河の流れ」を位置づけた。(第1・4・5号)	pp.177-182
読書の広場 さくら日和 鉄道員	・生涯にわたって読書に親しむ態度を養うことをねらいとし、「さくら日和」「鉄道員」を位置づけた。(第1・2・3・5号)	pp.183-208
恋のうた 現代の恋／近代の恋／古典の恋	・恋をテーマにした各時代の代表的な短歌・俳句・詩などをとおして、周囲に目を向け、人の紡ぐ言葉の吟味につなげることをねらいとし、位置づけた。(第1・5号)	pp.209-216
Ⅱ		
1 心を見つめる 飛ぶことを知っている魂 クルミの小部屋	・形のない思いやイメージを言葉で表現する随想から、書き手独自の見方をとらえることをねらいとし、「飛ぶことを知っている魂」「クルミの小部屋」を位置づけた。(第1・3・4号)	pp.217-228
2 小説を楽しむ (二) 待合室 おぼろ月 [文学の窓 5] 文学の広がり	・人々の心の交流や心の機微を描く作品から、表現の効果や工夫について考えさせることをねらいとし、「待合室」「おぼろ月」を位置づけた。(第1・3・4号) ・さまざまな文学のジャンル、新しい形などの広がりを示し、文学に対する興味を喚起するよう、「文学の窓 5」を位置づけた。(第1・2・4・5号)	pp.229-260
古典の世界 4 桐壺 若紫	・世界中で愛される「源氏物語」から、古典作品に対する興味を喚起し、伝統文化への関心を高めることをねらいとし、「桐壺」「若紫」を位置づけた。(第1・5号)	pp.261-266
3 文化を感じる 夏の月 共感と驚異	・作品の内容や解釈をふまえ、文化や文学に対するものの見方、感じ方、考え方を深めることをねらいとし、「夏の月」「共感と驚異」を位置づけた。(第1・2・5号)	pp.267-280
4 短歌・俳句に親しむ 短歌 俳句 [書く] 十七音のパズル [文学の窓 6] 短歌・俳句の展開	・短歌・俳句の表現の仕方をふまえて解釈の多様性について考察することをねらいとし、短歌 10 首と俳句 11 句を位置づけた。(第1・2・4・5号) ・短歌・俳句の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な作品になるよう工夫することをねらいとし、「十七音のパズル」を位置づけた。(第2・5号) ・近現代短歌・俳句の展開を示し、短歌・俳句の流れについて理解が深まるよう、「文学の窓 6」を位置づけた。(第1・5号)	pp.281-294
5 小説を味わう 山椒魚 離さない [文学の窓 7] 文学の中の動物	・幻想的な文学作品の中に込められた作者のものの見方、考え方と自分の考えを照らし合わせて考察することをねらいとし、「山椒魚」「離さない」を位置づけた。(第1・5号) ・動物が活躍する寓話的・象徴的な物語から、文学作品の描く世界に対する興味を喚起するよう、「文学の窓 7」を位置づけた。(第1・5号)	pp.295-328
古典の世界 5 能登殿最期 四面楚歌	・人間の最期を描いた場面において特徴的に表れる作者の価値観を読み解き、言語文化の特徴について考えを深めることをねらいとし、「能登殿最期」「四面楚歌」を位置づけた。(第1・5号)	pp.329-334

6 名作を読む（二） こころ [文学の窓 8] 近代の作家と名作	・西洋の文化の影響を受けながら隆盛した明治以降の近代文学と現代文学のつながりを視野に入れながら、現代に生きる自分たちとの共通点を見いだすことをねらいとし、「こころ」を位置づけた。(第1・5号) ・日本近代文学のあゆみとともに、名作の冒頭を紹介し、近代文学作品に触れるきっかけとなるよう、「文学の窓 8」を位置づけた。(第1・2・4・5号)	pp.335-366
7 文学を生み出す 私たちの黄色 タイムリミット 書斎 [書く] 物語を紡ぐ [書く] 思い出を形に	・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察することをねらいとし、「私たちの黄色」「タイムリミット」「書斎」を位置づけた。(第1・2・5号) ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることをねらいとし、「物語を紡ぐ」「思い出を形に」を位置づけた。(第1・2・5号)	pp.367-383

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・全編を通じて色彩豊かな写真、図版、イラストなどを多用し、我が国の言語文化への興味をかき立て、積極的に学習活動に取り組む姿勢を引き出すよう配慮した。
- ・「文学の扉を開こう」を置き、文学的文章の特徴や読み方についてのポイントをまとめて、文学的な文章の読みの観点の獲得の一助となるよう配慮した。
- ・近現代の文学作品のみならず、随所に「古典の世界」単元を配置して主要な古典作品を紹介し、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められるよう配慮した。
- ・小説や詩歌の単元の末尾に、学習のねらいに即した話題や資料をまとめたコーナー「文学の窓」を設置し、背景知識の解説、ビジュアルな参考資料、関連するブックガイド等を掲載し、我が国の言語文化に対する興味・関心を引き出し、多様な探究的学習に資することができるよう配慮した。
- ・教材に関連して、言葉について興味をもったり認識を深めたりできる内容をまとめたコラム「ことのは」を随所に掲載し、言語文化に対する興味を喚起し、知識を広げたり深めたりすることができるよう配慮した。
- ・巻頭口絵に「遠くを見上げて」として教材文から空や月、広い視野をもつことに関する部分を掲載し、積極的に学習活動に取り組む姿勢を引き出すとともに、多様な探究的学習に資することができるよう配慮した。
- ・巻末付録として「文学の流れ」「心を言葉に」「季語を楽しむ」を掲載し、さまざまな学習の場面で参照し知識を深めることができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-74	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
50 大修館	文国 705	新編 文学国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- 主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるよう配慮する。
- 文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう配慮する。
- 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮する。
- 学習指導要領に示された教育目標への対応に配慮しつつ、上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動を通して生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

●構成

- 学習上の便宜に配慮して、第Ⅰ部・第Ⅱ部の二部構成とした。
- 単元構成は各単元のねらいにもとづいたテーマ別の編成とし、学習上のねらいが明確になるよう配慮した。
- 各部に「書く」コーナーを設け、課題に沿って文学的な文章を書く活動に段階的に取り組めるよう工夫した。また、参考として、作家による文章を掲載し、学習活動に資するようにした。
- 各部に「古典の世界」を設け、主要な古典作品に触れて我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められるよう配慮した。
- その他に、生涯にわたって読書に親しむ態度を養うことをねらいとする「読書の広場」、現代文・古文・漢文の詩歌を融合的に扱う「恋のうた」を設けた。

●教材選択にあたっての配慮

- 言語文化としての価値や学習上のねらいをふまえつつ、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材をバランスよく配置した。また、小説、随想、評論、詩歌など、多様なジャンルの文章に触れることができるよう配慮した。
- 近現代の文学作品のみならず、古典においても、説話、随筆、物語などさまざまな時代・ジャンルの表現に触れることができるよう配慮した。

●教材化の工夫

1. ねらいとする資質・能力の明確化

- 単元の扉には、その単元の学習上のねらいを示し、各教材の冒頭と本文の後の「学習」コーナーに「目標」を掲げて、身につけるべき資質・能力を意識しながら学習に取り組むことができるよう配慮した。
- 本文を読みながらその内容を確実に理解するための「脚問」を本文下欄に、本文の理解を深めるための設問「学習のポイント」を「学習」コーナーに位置づけ、文章を的確に読み取る力が身につくよう配慮した。
- 本文下欄の見開きごとに、語句・漢字の学習に役立つ「語句」「漢字」欄を位置づけ、注意したい慣用表現や覚えておきたい常用漢字を提示した。読み替えや同音異義語、対義語なども示し、「学習」コーナーの「語句と漢字」欄とあわせて、語彙・漢字の学習に資するよう配慮した。
- 教材の内容と関連させながら、言葉について興味をもったり認識を深めたりできる内容をまとめたコラム「こののは」を随所に位置づけ、言葉に対する理解を深め、探究心を高めることができるよう配慮した。

2. 言語文化への興味・関心を引き出す工夫

- 「文学の扉を開こう」を置き、文学的文章の特徴や読み方について理解を深められるよう配慮した。
- 小説、詩歌単元の末尾に「文学の窓」を設置し、背景知識の解説、ビジュアルな参考資料、関連するブックガイド等を掲載し、我が国の言語文化に対する興味・関心を引き出し、多様な探究的学習に資することができるよう配慮した。

●付録の充実

- 巻末付録「文学の流れ」「心を言葉に」「季語を楽しむ」に、学習のさまざまな場面で随時参照できる資料を、ビジュアルな図版を用いながら提示し、学習意欲を高めることができるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容																				該当箇所	配当 時数				
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等																								
			A 書くこと										B 読むこと														
			(1)				(2)		(1)						(2)												
			ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ア			イ	ウ	エ	オ
文学の扉を開こう																									pp.8-16	B：1	
I																											
1 明日をひらく	少なくとも最後まで歩かなかった	○			○		○								○	○		○				○				pp.18-26	B：2
	そとみとなかみ	○			○		○								○	○		○				○				pp.27-33	B：2
	〔書く〕言葉でスケッチ	○			○		○	○				○														pp.34-38	A：6
2 小説を楽しむ（一）	ナイン	○	○	○	○		○								○	○			○				○			pp.40-55	B：6
	晴れた空の下で	○	○	○	○										○	○	○		○				○			pp.56-65	B：4
	〔文学の窓 1〕本の世界を広げよう			○			○																			pp.66-68	
古典の世界 1	星取り	○	○			○	○								○				○	○	○		○			pp.70-71	B：2
	児の飴食ひたること	○	○			○	○								○				○	○	○		○			pp.72-73	B：2
3 詩を味わう	道程	○	○	○	○		○								○	○		○		○						pp.76-77	B：1
	小景異情	○	○	○	○		○								○	○		○		○						pp.78-79	B：1
	永訣の朝	○	○	○	○		○								○	○		○		○						pp.80-83	B：1
	コスモス	○	○	○	○		○								○	○		○		○						pp.84-85	B：1
	〔文学の窓 2〕詩の展開	○		○			○																			p.88	
4 名作を読む（一）	山月記	○	○	○	○	○	○								○	○	○	○			○			○		pp.90-109	B：6
	〔文学の窓 3〕生まれ変わる文学			○			○																			pp.110-112	
古典の世界 2	かぐや姫の昇天	○	○			○	○								○				○	○	○		○			pp.114-115	B：2
	月やあらぬ	○	○			○	○								○				○	○	○		○			pp.116-117	B：2
5 社会に生きる	神去なあなあ日常	○	○	○			○								○	○			○				○		○	pp.120-133	B：3
	鞆	○	○	○			○								○	○		○		○						pp.134-141	B：3
	その日東京駅五時二十五分発	○	○	○			○								○	○		○	○	○				○		pp.142-153	B：3
	〔文学の窓 4〕社会と文学			○			○																			pp.154-156	
6 表現を味わう	身内ほど厄介なものはない	○	○	○	○		○								○	○				○						pp.158-161	B：3
	柿	○	○	○	○		○								○	○				○						pp.162-165	B：3
	ぼくのお母さん	○	○	○	○		○								○	○				○						pp.166-171	B：3
	〔書く〕思いを言葉に	○	○	○			○	○	○			○														pp.172-176	A：6
古典の世界 3	はしたなきもの	○	○			○	○								○		○		○	○	○		○			p.178	B：1
	手のわろき人の	○	○			○	○								○		○		○	○	○		○			p.179	B：1
	行く河の流れ	○	○			○	○								○		○		○	○	○		○			pp.180-181	B：2
読書の広場	さくら日和	○	○	○			○								○	○	○									pp.184-195	
	鉄道員	○	○	○			○								○											pp.196-208	
恋のうた	現代の恋／近代の恋／古典の恋	○	○	○		○	○								○			○						○		pp.210-211	B：3
II																											
1 心を見つめる	飛ぶことを知っている魂	○					○								○	○		○							○	pp.218-222	B：2
	クルミの小部屋	○					○								○	○	○	○		○					○	pp.223-228	B：2
2 小説を楽しむ（二）	待合室	○	○	○			○								○	○		○					○			pp.230-243	B：4
	おぼろ月	○	○	○	○		○								○	○	○		○						○	pp.244-257	B：4
	〔文学の窓 5〕文学の広がり			○			○																			pp.258-260	
古典の世界 4	桐壺	○	○			○	○								○				○	○	○				○	pp.262-263	B：2
	若紫	○	○			○	○								○				○	○	○				○	pp.264-265	B：2
3 文化を感じる	夏の月	○	○	○		○	○								○	○			○		○	○				pp.268-273	B：2
	共感と驚異	○	○	○		○	○								○	○	○		○		○	○				pp.274-280	B：2
4 短歌・俳句に 親しむ	短歌	○	○	○		○	○								○	○	○				○					pp.284-285	B：2
	俳句	○	○	○		○	○								○	○	○				○					pp.286-287	B：2
	〔書く〕十七音のパズル	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○													pp.290-293	A：6
	〔文学の窓 6〕短歌・俳句の展開	○		○			○																			p.294	
5 小説を味わう	山椒魚	○	○	○			○								○	○	○	○	○					○	○	pp.296-309	B：6
	離さない	○	○	○			○								○	○				○			○			pp.310-326	B：6
	〔文学の窓 7〕文学の中の動物			○			○																			p.328	
古典の世界 5	能登殿最期	○	○			○	○								○				○	○	○			○		pp.330-331	B：2
	四面楚歌	○	○			○	○								○				○	○	○				○	pp.332-333	B：2
6 名作を読む（二）	こころ	○	○	○		○	○								○	○	○	○		○			○		○	pp.336-363	B：9
	〔文学の窓 8〕近代の作家と名作	○		○			○																			pp.364-366	
7 文学を生み出す	私たちの黄色	○	○	○			○								○	○	○				○					pp.368-369	B：1
	タイムリミット	○	○	○	○		○								○	○	○				○					pp.370-371	B：1
	書斎	○	○	○			○								○	○					○					pp.372-377	B：1
	〔書く〕物語を紡ぐ	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○													pp.378-382	A：8
	〔書く〕思い出を形に	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○													p.383	A：4
							○																				
巻末付録	文学の流れ						○																				
	心を言葉に	○	○			○																					
	季語を楽しむ	○	○			○																					